

七種・横八五種は室町中期の作と認められてゐる。

コウミヨウジ 光明寺 金澤西堀川町に在つて、眞宗西派に屬する。

コウミヨウジ 光明寺 能美郡粟生に在つて、眞宗東派に屬する。もと道場であつたが、明治十二年五月寺號公稱の許可を得た。

コウミヨウジ 光明寺 河北郡余地に在つて、眞宗東派に屬する。明治十一年寺號の公稱を許された。

コウミヨウジ 光明寺 鳳至郡河内(今北河内)に在つて、眞宗東派に屬する。

コウミヨウジ 光明寺 鳳至郡武連に在つて、眞宗東派に屬する。

コウミヨウジサブロウ 光明寺三郎 石川郡中興一分地頭であつた。正中二年四月四日白山宮の臨時祭禮に競馬を行つた時、金劔宮が故障を申立てたにより、翌日金劔宮へ押寄せ、多數を殺害した中に、三郎も亦命を失つた。

コウモン 拷問 ↓サイパン 裁判。

コウモンバシ 黄門橋 石川郡下吉野と能美郡釜清水との間の手取川に架けられる。兩岸甚だしく狭まつて峽流をなし、橋の長さは二五米であるが、橋より水面まで二七米ある。一に高門橋とも書く。北國巡杖記に、『鶴橋は深淵にかけわたして、さながら壘に懸ける唐橋のごとし。橋上より三升の水を橋の口より溢すに、いまだその半にいたらずといへり。』とあるは、この橋のことであらう。しかし吉野十景の一に數へられる高門橋は上吉野にあつたといひ、寶永誌に一揆取合の時焼失して、その橋杭のみを残すとあるから、今の

下吉野のものとの位置が異なるのであらう。コウユルイヘン 好祐類編 前田綱紀が經義を學士等に質して得た答書を収録したもので、その件數四千七百に上り、今之を二十冊に編してある。コウヨウケンカンホンマツツウカイ 甲陽軍鑑本末編解 十八冊。有澤永貞著。甲陽軍鑑の評註で、甲州流の兵法を詳しく註解してある。正徳二年室鳩巢の序が附いてゐる。コウヨウニン 公用人 加賀藩末に於いては聞番のことを公用人と稱した。幕府及び諸藩の吏と交渉して、時々の真相を把握せんとする外交吏である。コウラ 小浦 ↓ヲウラ 小浦(羽咋)。コウラ 小浦 鹿島郡能登島に小浦村があつたといふが今存せぬ。能登名跡志に、『小浦村と云ひて、野崎と長浦との間にありし也。此村年貢未進して、一村舟に乗り、行方なく退轉せし也。越後國へ渡り、今も小浦と云ひて鹽燒あると云へり。』と見える。コウラ 小浦 ↓ヲウラ 小浦(珠洲)。コウライジマ 高麗島 珠洲郡立壁の海上に在る。文化十四年郡方書上に、『高麗島と申は立壁村領出崎に有之。』とある。コウライマゴサブロウ 高麗孫三郎 祖先孫三郎は朝鮮人で、金子萬右衛門と共に捕虜として來たものである。その子孫三郎は十一人扶持を受けて御細工人並となつたが、寛文十一年藩侯の參勤に隨行し、江戸で病死した。後代の孫三郎に至つて町人となり、縫針細工をなし、又武器、馬具を造り、家名を高麗屋と稱した。コウラクジ 光樂寺 江沼郡山代に在つて、

眞宗西派に屬する。もと道場であつたが、明治十二年五月寺號公稱の許可を得た。

コウラクジ 光樂寺 河北郡吉倉に在つて、眞宗東派に屬する。

コウラクジ 光樂寺 鳳至郡前波に在つて、眞宗東派に屬する。

コウラクジ 光樂寺 珠洲郡本に在つて、眞宗東派に屬する。

コウリュウウイン 香隆院 加賀藩主第十一代前田治脩の子裕次郎利命の法號。詳しくは香隆院梅胤聰賢大居士。

コウリュウコウ 興隆講 白山本宮にあつた講衆の名稱。白山宮莊嚴講中記録觀應二年六月十五日の條に見える。

ゴウリヨクマイ 合力米 加賀藩には純然たる臣國にあらざるもの、例へば客分の如き者を優遇する爲に合力米を給することがあつた。合力米の數量は石數を以て算し、現米を以て支給する。又藩外の用達町人等に、年々若干の扶持米を給し、之を合力と稱することもある。他國合力扶持と書かれてゐるのは是である。大聖寺藩では側室などに合力米を與へてゐた。

コウリンイン 興臨院 京都紫野大徳寺の塔頭で、畠山義總が創建した。前田利家は天正十三年七月廿四日之をその父休縁道機之位牌所として、鳳至郡諸岡村の地百石を寄進したが、後に召上げられた。

コウリンジ 光林寺 能美郡串茶屋に在つて、眞宗東派に屬する。

コウリンジ 光琳寺 鳳至郡劔地に在つて、眞宗東派に屬する。もと河北郡木越に草創せられ、光徳寺、光専寺と共に木越三光と言は

れたが、天正八年佐久間盛政に攻められて、今の地に遁れ來つたといふ。コウリンジ 光琳寺 鳳至郡波志借に在つて、眞宗西派に屬する。コウリンジ 高林寺 珠洲郡飯田に在つて、眞宗東派に屬する。コウリンジ 香林寺 金澤泉寺町に在つて、神應山と號し、曹洞宗に屬する。貞享二年の由來書に、慶安四年長岩和尚開基。檀那青木五兵衛が前田利常に請うて寺地を拜領した。後青木主計は侯の恩を謝する爲、當寺にその御影堂を興したとある。コウリンボウウチ 香林坊氏 先祖向田兵衛は石川郡倉谷に浪人して居たが、前田利家金澤入城の頃町人となつた。そこへ叡山の僧であつた香林坊といふ者が還俗して入婿した。香林坊は目薬の秘法を知つてゐたので、之を調合して利家に差上げた爲、扶持を賜はらうとしたが辭退し、元和二年病歿した。この時から香林坊が家名となり、次代香林坊喜兵衛は町年寄を勤め、延寶四年之を辭して六年歿した。三代香林坊喜兵衛は延寶七年から銀座役を命ぜられ、毎年銀三貫目を賜はり、二十二年勤続して元祿十三年病死し、其の子喜平次が後を受けた。しかし、香林坊の名稱の起源に就いては別に異説がある。↓コウリンボウバシ 香林坊橋。コウリンボウバシ 香林坊橋 金澤片町と石浦町との間にある。楠登の小橋天神記にいふ。今の香林坊橋を小橋一名道安橋と號した。昔は限川二派に流れて、本流に架したのを大橋といひ、支流に懸けたものを小橋といふてゐたが、寛永八年の火災以後市區を改め